

夏霞

むかしむかし

わたしの岬から

二人の少女が飛び降りた

むりやり連れてこられ

女郎屋に売られた

年端も行かぬ女の子

蔓がからみ合った朝顔のように

抱き合ってもつれ合って海に消えた

土から引っこ抜かれ

乱暴に手折られ

日陰の花瓶に追いやられ

枯れることも許されず

種を残せずに消えた

朝露と共に消えた

白い民族衣装はどこへ行った

父母の言葉はどこへ行った

いとしい幼馴染はどこへ行った

木槿はどこへ行った

桜に取り憑かれた地から

手を取り合って走って逃げた

いつか見かけた海の近くへ

懐かしい花の咲く場所へ

けれどもそれは浜茄子で
翌朝にまた咲くこともなく
風に吹かれて消えて行った